

令和5年度 青梅市立第三小学校 学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1. 児童の「生きる力」を育てる

2. 開かれ、信頼される学校づくり

3. 家庭・地域の教育力の活用

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
人権尊重を基盤とした、豊かな人間性と社会性を育てる学校	豊かな人間性と社会性を育てる	「あいさつの励行」と「いじめ防止」	「全力あいさつ」を合言葉に、全教職員の共通実践により全校的なあいさつ指導を行い、進んであいさつができる子に育てる。	B	挨拶は年間を通して生活指導目標に設定。児童A評価は昨年度比+5%で45%、AB評価88%。教員AB評価94%。来校者に挨拶を褒められる場面も増えている。保護者AB評価は68%。	生活の中であいさつが身に付きつつあると考えられるので取り組みを継続する。児童会等から自主的な活動ができる指導も行う。	B A:1名 B:7名 C:0名 D:0名	校長先生を先頭に行事で出会う児童も校内ではよく挨拶ができる。意外に評価が高い。教員が自信を持って評価できるまで頑張ってください。	いつでもどこでも挨拶のできる児童の育成を引き続き行い、三小のよさとしていくよう努める。
			優しい言葉遣い、校内美化の徹底(かかとの揃った靴箱)、時間を守るなど、ていねいな立ち振る舞いを心がける。	C	児童教員保護者AB評価は73%、児童のA評価が+10%で43%、指導の効果が見られる。保護者AB評価は52%から57%に向上が見られる。	チャイム回数を減らし時間を意識させる指導は来年も引き続き行う。言葉遣いは学校での指導に加え、日頃の家庭での意識啓発を期待する。	B A:1名 B:4名 C:3名 D:0名	評価は低いので、家庭での指導も大切にしていきたい。少なくとも校内での会話を丁寧にしていけば良い。校内はいつも整然としている。	社会活動の基本となる言葉の育成のために、各教科での言語活動を意識的に行うとともに、家庭への啓発も進める。
			「いじめは絶対に許さない」毅然とした態度で指導するとともに、年4回のいじめに関するアンケートの実施や、「学校いじめ対策委員会」の開催等により、いじめの未然防止、早期発見、即時対応に努める。	A	児童評価は63%から68%に向上。保護者評価はAB評価97%。いじめはありうるものと考え、組織的に未然防止・早期発見・早期対応に注力していることも功を奏している。9つのアンケート項目の中でA評価が一番多い。	安全安心の学校づくりは学習の基礎基本を支えるものである。少ない数ではあるが不安に考える児童保護者がいることは事実である。一層丁寧な指導、組織力を生かした指導を行う。	A A:5名 B:1名 C:0名 D:0名	高評価で良いが、いじめ防止は永遠の課題なので引き続き丁寧に指導を続けたい。対策は徹底されており対応の結果を評価する。児童C評価は気にかけたい。	引き続き未然防止に努めるとともに、早期対応を組織的に行う。
学ぶ意欲を高め、体力向上と健康増進の推進と	学習の基礎・基本の徹底と体力向上と健康増進の推進	基礎学力の定着と体力の向上	電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用した授業を推進する。また、習熟度別算数少人数指導の推進や、放課後算数教室を開催し、基礎的な学力の定着を図る。	A	児童のA評価は73%から79%に、教員評価はAB評価が95%から85%。A評価の児童と保護者の差が大きい。学校ではタブレットとその他の機器による活動が当たり前になっている。家庭では家庭で活用しきれない様子が見られている。	児童はICT機器を活用できていると感じており、教員も活用効果を感じている。今年度の成果を生かしてより効果のある活用をしていく。少人数指導は基礎基本の定着と自己肯定感を育てることを目指して指導を継続する。	A A:5名 B:2名 C:0名 D:0名	ICTの活用は定着してきたが、各家庭への啓発や補助のスタッフなどの対応が必要である。児童の評価が高い事は評価に値する。学びの合理化とともに基礎学力の向上も大切にしたい。	ICT機器の利活用を継続的に行うとともに、効果的な活用方法の研修と実践を行う。基礎学力定着のため、来年度は定期的な朝学習の時間を確保する。
			「分かる授業・考える授業」をめざし、教員が互いに授業を見合い見せ合い、切磋琢磨することで授業改善を進める。成長する児童の姿で保護者からの信頼を得る。	B	児童のA評価は3年度32%、4年度63%、5年度63%。AB評価は95%。教員評価はできていると自覚がありAB評価は80%である。	大多数の児童にとって授業はわかりやすいものと捉えられている。理解促進のためのICT機器の活用や教員の日々の実践も継続して積み重ねていく。	B A:3名 B:5名 C:0名 D:0名	教員の肯定的評価が少なく感じているが、もつと自信をもちたい。ベテラン教師の授業はとても良く、新人にも良い影響を与えられている。家庭学習も力を入れている。思考力の育成も大切にしたい。	授業改善は研究・研修を通して改善している。よりよい授業を追究するために他学級の参観等も日常的に行っているため、相互研鑽の気運を保つようにする。
			休み時間の外遊びを推奨し、日常的に体を動かす習慣を身につけさせる。また、体育授業の充実を図り、進んで運動する児童を育てる。	B	教員評価AB評価は4年度100%、5年度90%。児童評価は4年度70%、5年度70%。国の体力調査では「体を動かすことが好き」に肯定的な回答児童は都平均92%より1ポイント高い93%であった。	縄跳びチャレンジ、マラソンチャレンジ、児童の体育委員会主催のドッジボールウォーク等取り組みを全校的に進めている。来年度も全校的な自発的な活動ができるよう指導をしていく。	B A:4名 B:5名 C:0名 D:0名	外遊びは学校がよく工夫もして取り組んでおり、先生と遊んでいる姿もよく見る。児童評価が低い原因を究明し、より一層の取り組みを期待したい。	外遊びや体を動かす楽しさの定着はしてきているので、児童の肯定的評価向上を目指している。児童の自発的な活動ができるよう指導する。
地域や社会に開かれ、信頼される学校	家庭・地域の連携と情報発信	安全・安心な環境づくり	学校公開・授業参観の開催、年2回の学校評価の実施、毎月1回の学校便りやHPの更新により、学校情報をきめ細かく発信し、保護者や地域との連携を深める。	A	児童のA評価は4年度47%、5年度79%と大きく向上。保護者のAB評価は93%とこちらも評価は高かった。	学校行事での姿を見てもらえた満足している児童も多かった。校外学習の帰校時刻のお知らせ等適時メール配信することも効果があったものと考えられる。今後は学校だけでなく等学校での教育活動についてその背景なども知らせることも行っていく。	A A:9名 B:0名 C:0名 D:0名	情報発信は素早く、学校便りもできている。8月開催の校内研究会も素晴らしい内容だった。コロナが収束し、学校行事が行われていることも評価を高くしている。積極的な取り組みの成果とみていく。	保護者の自由意見でも情報発信の頻度が上がったことを評価されている。学校公開や文化的行事での来校者への配慮も改善の方策を検討する。
			セーフティ教室や交通安全教室・自転車講習を開催するとともに、PTA等による登校時の見守りや、校長のバトロールの実施等により、登下校時の交通事故や校外での犯罪被害の防止を図る。	B	児童評価、保護者評価はAB評価ともに95%である。日常の安全指導、校長による朝のバトロールは効果が出ている。教員評価はAB評価が4年度93%5年度85%となっている。	登下校の安全、地域の安全は学校での指導と合わせて地域・保護者の協力を伴うことで実効性があるものである。校長のバトロールやPTA本部の地域見守り(廣振り当番)など地域との連携で安全を確保していく。	A A:5名 B:4名 C:0名 D:0名	毎朝声をかけながら見守ってくださっている校長のバトロールは、児童にも保護者にも安心感を与えている。引き続きの取り組みを期待。今後は自治会のバトロールなどの地域との連携で活動を進めていくとよいが一考の余地あり。ヘルメット着用、右側通行は徹底したい。警察・PTAに期待する。	定期的な安全指導と日々のバトロールは効果的である。地域との連携によって交通事故や犯罪被害防止に努める。
			子供家庭支援センターや立川川同等の外部機関との連携や校内委員会、特別支援教育コーディネータ、教育支援員、スクールカウンセラーの活用を図り、全ての児童が安心して充実した学習活動ができるようにする。	B	児童アンケート項目は「相談できる大人がいるか」を問うている。4年度80%、5年度87%に向上している。教員のAB評価は96%である。相談できる大人がいないとしている児童が64名(10%弱)いることは気になる点がある。	担任だけではなく学年団や専科教員の目配り、スクールカウンセラー等の児童面談なども行っていることで相談できる安心感を作ることができているので今後も連携して進めていく。	B A:1名 B:6名 C:0名 D:0名	外部との連携は働き方改革にもつながる。相談できる大人がいない児童が64人いるのが心配。手厚い支援ができていと思うが、地域の連携(民生児童委員等)と一緒に対応したい。	学校として担任に加えて学年団、専科教諭、養護教諭、SC等、窓口を作って組織で対応している。SOSの出し方を日々の指導で行っていく。